

本文目次

序文

例言

凡例

第I章 遺跡の環境および調査に至る経緯と経過	1
第1節 遺跡の環境	1
第2節 周辺の調査成果	3
第3節 調査に至る経緯と経過	6
第II章 調査の結果	7
第1節 層序	7
1) 調査地の層序	7
2) 小断層	9
第2節 遺構と遺物	10
1) 古代以前	10
i) 前期難波宮回廊の追及	ii) 検出遺構
iii) 出土遺物	
2) 近世	13
i) 落込み	ii) 土壌・井戸
iii) SE94出土遺物	
3) 近代前半	32
i) 第3c層上面の遺構・遺物	ii) 第3a層上面の遺構・遺物
4) 近代後半	40
i) 通路	ii) 長屋建物の間取り
iii) 衛生施設	iv) 防空壕
v) その他の遺構・遺物	vi) 煉瓦
第III章 遺構と遺物の検討	51
第1節 SE94出土遺物について	51
1) 土器・陶磁器について	51
2) 陶磁器と石製品からみた調査地の住人について	51

3)土製品について	52
第2節 調査地周辺の近世から近代の様相	54
1)土地利用の変遷	54
2)長屋建物について	56
第IV章 まとめ	59
引用・参考文献	61

あとがき

索引

英文目次

報告書抄録

ふりがな	おおさかじょうあと 11							
書名	大坂城跡 XI							
編著者名	大庭重信・宮本佐知子・川村紀子・趙哲済・酒井一光							
編集機関	財団法人 大阪市文化財協会							
所在地	〒540-0006 大阪府中央区法円坂1-1-35 TEL.06-6943-6833							
発行年月日	西暦 2009年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおさかじょうあと 大坂城跡	おおさかしちゆうおうく 大阪府中央区 上町1丁目	27120	-	34° 35' 49"	135° 29' 46"	20080118 ~ 20080509	1,370㎡	大阪府営住宅の 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
大坂城跡	宮都 都市	古墳時代		柱穴		須恵器		
		古代				瓦		
		近世		井戸・土塙・落込み		陶磁器・土器・石製品・土製品		
		近代		畠・溝・長屋建物		陶磁器・土器		

第3節 調査に至る経緯と経過

今回の調査地は、中央区上町1丁目に所在する府営上町住宅(旧寺山住宅)の西南隅に位置する。当住宅は戦後まもなく建てられた集合住宅で、近年建物の老朽化が著しく、高層住宅への建替えが懸案されていた。当地域は難波宮の東南隅に当り、西隣の大阪市立聾学校敷地では、前期難波宮の「朱雀門」とそれに取付く回廊が検出されるなど、歴史上重要な場所である[大阪市文化財協会2004]。そのため、住宅の建替えに先立ち、全域を対象とした試掘調査を2004年度に実施し(NW04-2次)、20箇所でトレンチを設定して地層の分布状況と遺構の有無を確認した[大阪市文化財協会2005]。

この結果をもとに、府営上町第1期住宅の建替えが計画され、2008年1月18日より事前の発掘調査を実施した。まず、調査地南半の住宅建設予定部分に調査区を設け、重機により現代の整地層を除去したのち、平面調査に着手した。この調査区を1区と呼称する。また、調査地北半に前期難波宮の東西回廊が通っていることが予想されたことから、想定されるライン上に2～5区を設け、1区の調査と併行して遺構の確認作業を行った。

2008年4月23日には、1・2区を対象とした航空測量を実施した。調査は5月2日まで行い、5月9日には埋戻しを含めたすべての作業を完了した。

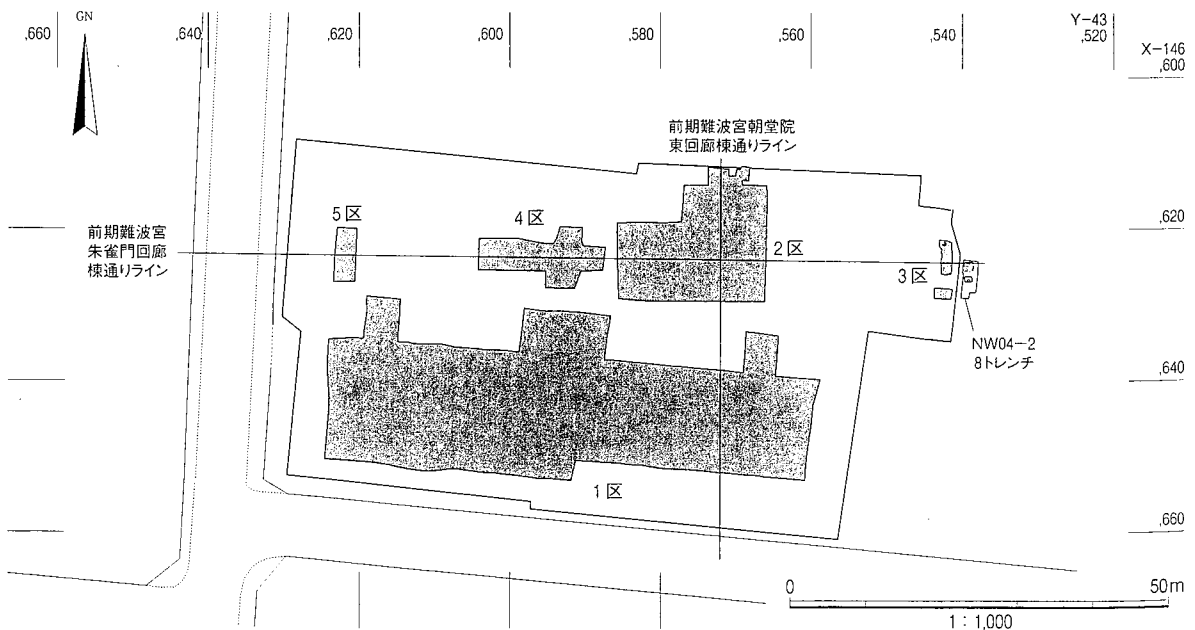


図8 調査区配置図